

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による 広域連携型学士力向上プログラム

れんけい

大学のさまざまな「資産」を活用し、「地元貢献する」大学づくりをすすめます！！



目次:

- 「福島学」について 2
- SD研修について 2
- 医療・福祉系インターンシップについて 2
- ものづくりプラントキャンパスについて 3
- 「生きる力」養成について 3
- もう1年。まだ1年。 4
- 初級日本語研修 4

試行錯誤ではありますが・・・

大学連携センター長 清水 修二

“大学連携事業 ただいま大展開中”

県内16大学が連携して教育事業に取り組むこの画期的なプログラムは、担当をお願いした教員・職員のご奮闘で大なる成果を挙げつつあります。「初年次教育」から「教員養成」に至る12のプログラムに、全県で合計99人（一部重複あり）の方々が携わっており、専従の事務局員を含めればざっと100人がこの事業に取り組んでいます。福島大学からも各プログラムの担当者として13人がそこに含まれているほか、サポート役として十数人のスタッフが協力しています。これほど大規模な連携事業は、他県には例がないのではないのでしょうか。「事業仕分け何するものぞ」と胸を張りたいところです。

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」もスタート切りました。県をはじめとする地方自治体や主要な経済団

体が特別会員として正式な構成メンバーに加わり、マスコミも注目しています。福島県の高等教育史における1つのエポックを画することになり得ると確信しています。

今回、事業内容のいくつかをご紹介します。ニューズレターを発行することとしました。福島大学のすべてのスタッフの皆さんに本事業にご注目いただき、引き続き強力なご支援をお願いしたいと思います。



紙面づくりのアイデア募集します！！

高大連携プログラム

2011年版作成に向けて！！

—準備中—

『ふくしまの大学』は、連携支援事業のひとつである高大連携プログラムで県下の高校に入学した新生に福島県の大学等を紹介した小冊子です。

この小冊子には、地元大学のよさをアピールし、ふくしまの大学を再発見できる中身があります。誌面に登場する学生も地元福島出身者にこだわりました。

『ふくしまの大学』の配布は、連携支援事業参加大学がそれぞれ分担し相双地区、いわ

き地区、県北地区……のすべての高校111校、配布数約21,000部を6月下旬から7月上旬にかけて、お届けしました。連携センターでも、相双地区、会津地区の一部、県南地区を担当いたしました。



現在、来年度版「ふくしまの大学2011」の作製に向けて、検討中です。どんな内容のものにするか、みなさまのご意見をひろく募集しています。

福島学テキスト編集

「福島学」プログラム



漂着水草清掃作業中のボランティアのみなさん

2010/08/29【福島民報】
Web版ニュースより

第1回全体会議をテレビ会議で、第2回目を8月31日に福島医大で開催しました。

授業見学で「福島研究」(鈴木典夫教室)に期待！

テキスト編集で福大は「総論」担当

①福島学共通授業の構築では、各大学で実施している授業の相互見学がありますが、福島大学では、鈴木典夫先生の授業である「福島研究」の1月予定の授業が見学対象として提案されている。学生のグループ研究の発表もあるとのこと期待が寄せられています。

また、②「福島学」テキストの編集・発刊では、各大学が調査している個別テーマ(日大：福島の水、福医大：新聞から見る福島の医療、桜の聖母：社会変革に生きた福島の女性など)ごとにブックレット方式で編集発刊を計画しており、福島大学は「総論」の部分を担当することになってい

ます。4部構成として、「(地域学の)アプローチ論」「福島の地域学」「面白『福島』」「地域の学び方」などを盛り込む素案が示されています。

猪苗代湖「水質日本一」奪還を目指す「水草刈り」に

学生ボランティア行動日！

「福島学」プログラム関連事業として、ACFが「清らかな湖・美しい猪苗代湖水環境研究協議会」と共催して実施する「猪苗代湖の水質保全のための水生植物回収事業」(水草刈り作業)に学生ボランティア行動日を設定し、学生等の参加を広く呼び掛けていくこととしています。行動日は10月23日(土)と10月30日(土)。(福島大学では30日が「大学祭」にあたるので23日が中心か?)

講師と参加者



和やかに進む研修



就業体験中の学生



コミュニケーション養成研修

SD合同研修プログラム

桜美林大学大学院 高橋真義講師

8月4日に奥羽大学にて、SD合同研修プログラムの選択研修として、「コミュニケーション養成研修」が開催されました。講師には桜美林大学大学院の高橋真義教授を招き、本プログラムに関係する各校から出席した職員、総勢23名が受講しました。

当日はたいへん暑かった日だったこともあり、時代に逆行して冷房をかなり強めに運転していたのですが、午前中のたいへん白熱したグループ形式の研修により会場内の気温はどんどん上昇し、ついには設定温度をさらに下げるほどの事態に。座学形式の研修会のつもりで参加した職員もいたようで、この過熱

ぶりには驚く声が多く聞かれました。

このSD合同研修はまだまだ続きます。

9月8日のハラスメント相談員研修(会津大学)、11月15日のタイムマネジメント研修(福島高専)、12月7日のストレスマネジメント研修(福島学院大学駅前キャンパス)など、選択研修は続々と開催される予定です。単なるスキルアップや交流の場としてのみならず、大学を超えた職員間の情報交換と切磋琢磨の場としても、このSD合同研修は有意義なものとなるはずです。

次回はあなたも参加してみませんか。

福祉系NPOインターンシップ始まる

医療・福祉共同教育プログラム

8月中旬から9月にかけて、福祉系NPOインターンシップを開催しています。

これは、福島大学と会津大学短期大学部に在籍する学生28名が、県内にある9つの福祉系NPO団体の協力のもと、インターンシップを行うというものです。その内容は各団体により異なりますが、人気があるのは授産作業所などに併設された喫茶店やフリースクールで、各団体でも指導にあたる人員が不足するケースがあるため、各団体の側でも受入れ体制の調整が必要なところがありました。

それに先だって、8月7日にはテレビ会議システムを用いて、福島大学と会津短大の学生を対象とした共通の事前説明会を開催しました。テレビ会議システムを使うこと自体

は、本連携事業でも頻繁に行っている様式であるため経験が豊富ですが、こうした学生を対象とした講義形式での活用はまだ前例が少なく、今後他の事業へ応用するための実績の一つとなったのではないかと考えています。

こうしたテレビ会議システムを活用した方式は、福島県内の学生を対象とした事業を展開する上で新たな可能性を拓くこととなるのではないのでしょうか。



ものづくりのマインドを育成！ ものづくりプラントキャンパス・プログラム

「ブリッジデザインコンテスト開催」11/6（土）

本プログラムでは、中学生に対してものづくりの楽しさを知らせるとともに、その重要性、そして技術や方法を通して実学としての勉学の大切さを知らせるためにデザインコンテストを開催します。

コンテストの実施に先立ち、県内連携大学等の教員（福島大学は小沢喜仁先生が担当）と学生によるものづくりの講義



や講習会を実施（10/2、10/24）し、実的なものづくりの技術や方法を持たせ、コンテスト出展内容の高度化を目指します。

今回は「橋のしくみと強さ」を題材に、ものづくり実験を通して、構造物が荷重を支える力のしくみと強さについて、遊びながら体験的に学びます。

今後、身の回りの生活用品の改善を目的とする「生活デザインコンテスト」や環境に配慮し、省エネや新エネルギーを目指した発明工夫を行う「環境エネルギーコンテスト」を企画・実施します。

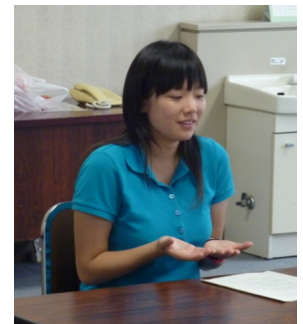
昨年のコンテスト風景



昨年のコンテスト風景



オーディション中の学生さん



キャスト選考風景



ワークショップでの清水副学長



渡辺厚保健管理センター長の基調講演



DVDドラマ制作進行中！！

「生きる力」養成プログラム

8月28日、「生きる力」養成プログラムの中で制作する「起き上がり小法師」のドラマ出演者と配役を決定する、「出演者打ち合わせ」が開催されました。

この日、集まったのは、福島大学、桜の聖母短期大学、福島工業高等専門学校、いわき明星大学、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部に在籍する学生12名と、福島大学の職員2名の方々でした。

事業概要の説明と、公開面接だけというシンプルな内容でしたが、たいへん充実した一時間半だったと思います。

当日は、選考の結果として落選する可能性があるともないとも明言していないまま公開面接を行ったため、各々が持てる力を出し切

らばかりに、会議室内で熱演をしていました（最終的には、全員合格です）。この出演者打ち合わせを終え、出演者が帰った後に実務担当者のみでの打ち合わせをしましたが、このときには既に各々の頭の中で、同じ人物が同じ配役として動き回っていましたので、イメージどおりの出演者を配役することができたということなのだと思います。

ドラマの撮影そのものは9月末から早速行う予定で、**主な撮影地は福島大学のキャンパス内**となります。役者たちの名演に、期待が集まります。DVDの完成が待たれるところです。

カウンセリング・プロセミナー終わる

「生きる力」養成プログラム

8月26日から27日にかけて、一泊二日で飯舘村の「宿泊体験館きこり」を会場に、カウンセリング・プロセミナーが開催されました。

初日は本学の保健管理センターの渡辺厚先生による基調講演「精神科医から見る現代の青年期の心理特性」と、岩手大学の保健管理センターの早坂浩志先生によるワークショップ、翌日も引き続き早坂先生によるワークショップが開催されました。

参加者は総勢25名で、本連携事業に関わるほぼすべての大学から参加者が集いました。参加者の内訳も様々で、カウンセラーのみならず、教員や職員、寮母など、各校内でのあらゆる分野からのセミナーに対する期待

が感じられる構成となっていました。

一部では飯舘牛を食べるための慰安旅行などという、大きな声では言えないような会話も聞かれましたが、そうしたリフレッシュという目的も達成できたとするのなら、セミナーとしての目的は120%ぐらい達成できたような印象です。

また、「生きる力」養成プログラムは、気づけば事業開始当初よりも多くの方が何らかの形で関わるようになったため、今後さらに、学校の垣根を超えたつながりが求められ、そうしたつながりを強化する上でも、たいへん有意義なセミナーとなったといえそうです。

地域のにぎわいは地域に根ざした人づくりから

「もう1年。まだ1年。」

上遠野 和村



福島大学
大学連携センター

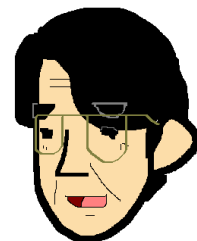
編集・発行
大学連携センター
TEL.024-548-5295
福島市金谷川1



にほんのこころ 茶道に
奮闘中の留学生



福島大学・大学連携センターに通い始めて、この9月を経れば、暦を一巡する。勤務初日、金谷川キャンパスは、桂と樺、桜などの葉叢が色づいていた。特に桂が多いこと、丘陵に沿う桂木立がいいと思った。今でもいいなと思う。大学連携センターの部屋からは、樺の木立の中に黒枠の窓が嵌る白壁が見える。瀟洒な建物・保健管理センターの白壁である。樹間に木漏れ日の揺らぎ、風の道、鳥の道、蝶の道、蜻蛉の・・・、蜘蛛も飛ぶ、蛇も這う。緩やかな広くはない斜面の木立だが、豊かである。いいものである。金谷川キャンパスのあちこちにある木立連は誇っていいと思う。



「身近なものを誇れぬものは、結局何も見えていないのである。」（金谷川四十雀）

さて、「れんけい」である。

去る8月22日付の福島民報「日曜論壇」に福島県立博物館の赤坂憲雄館長が「県内の文化施設の連携が盛んになっている」とし、形だけの連携のための連携では、「現場が疲れる、消耗する。連携の先にあるものを、常に問いかけてい。」と。連携の何たるかを見、つまるところ連携は人であること、人の縁が将来に財産となることを論じ、連携の先にあるものに目を凝らすことが要ると結ぶ。

戦略的大学連携事業・12プログラムの多種多様な取組には、福島大学をはじめ100名を超える多くの教員・職員の方が関わっている。現状ではいろいろな問題をかかえているかもしれない。が、まだ1年である。「学生のために」という連携の先にあるもの、10年後には常識となる連携のあり様に目を凝らし、絆づくりを進める気概が必要か？これは福島大学への期待でもある。

初級日本語研修始まる

留学生茶道に挑戦！！

国際化プログラムの一環として、初級日本語研修を前期期間中に開催いたしました。



全10回の研修では、基礎的な日本語の語学研修のみに留まらず、日本文化、ときには福島県の地域文化そのものも授業のテーマとされ、日本へ留学して半年にも満たない留学生たちにとっても、たいへん興味を惹く内容となっていたようです。

特に盛り上がったのが、日本の茶道を体験する授業で、このときは日本語の文法もそっちのけで留学生たちは大興奮。茶道特有の価値観を完全に理解することは難しいでしょうが、日本で留学するということができたのではないかと思います。

国際化プログラム

この他にも、日本で就職活動をするために知っておきたい知識をレクチャーする



ビジネス日本語研修

では、本連携事業でも多数の実績があるテレビ会議システムを用いて、複数の大学で合同開催しています。



異文化弁論大会 11月開催決定 東日本国際大学で！！

また、11月に開催する異文化弁論大会も、いよいよ実施に向けての準備が本格化してきました。ご紹介した初級日本語研修は後期も開催する予定です。現時点では留学生だけを相手にしている印象が拭えませんが、このような方向性に則り、日本人学生に対する国際化も進めていきたいと思っております。